

【ワーク説明】

なんとなく実施する レビューからの脱却

～目的・観点設定に基づくレビューの効果を体感してみよう！

株式会社 HBA

Software Quasol 安達賢二

[http://www.software-quasol.com/
adachi@hba.co.jp](http://www.software-quasol.com/adachi@hba.co.jp)

安達 賢二 (あだち けんじ) adachi@hba.co.jp

株式会社HBA Quality Solution Service ([Quasol](http://www.software-quasol.com/))

<http://www.software-quasol.com/>

【経歴】

1987年北海道ビジネスオートメーション (現HBA) 入社

システム保守・運用・開発業務、プロジェクトマネージャなどを経験後、部門品質保証担当、システム監査委員、全社品質保証担当、全社品質・セキュリティ・環境管理統括責任者、全社生産革新活動SLIM (スリム) 技術統括コーディネータなどを担当。

2012年社内イントレプレナー第一号事業者として品質向上支援事業を立ち上げ、現在に至る。

【社外活動】

NPO法人 ソフトウェアテスト技術振興協会 (ASTER) 理事
JSTQB (テスト技術者資格認定) 技術委員

JaSST (ソフトウェアテストシンポジウム) 北海道実行委員

SS (ソフトウェア・シンポジウム) プログラム委員

ASTER主催テスト設計コンテスト本部 & 地域審査員

SQIPソフトウェア品質委員会運営委員

SQuBOK_Ver3プロセス改善研究Grリーダー (プロセス改善の黒歴史研究)

JCT1/SC7/WG24 (Very Small Entities) エキスパート

自律改善メソッドSPINA3CH Founder & User Group運営メンバー

TEF (Test Engineer's Forum) 北海道テスト勉強会 (TEF道) お世話係 など

【研究論文や著書】

JaSST2016東京「レビュー目的・観点設定の効果と課題」(Best Speaker賞)

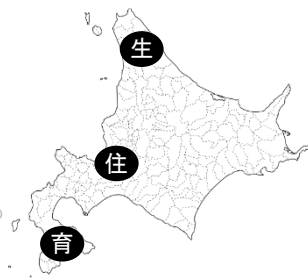
SPI Japan2012 (最優秀賞) /2013 (実行委員長賞) /2015 (わくわく賞)、SS2013(最優秀発表賞)

SPES2012(Best Presentation賞) テスト設計コンテスト全国大会出場2012/2013(準優勝)

SEC BOOKS『プロセス改善ナビゲーションガイド』なぜなに編、プロセス診断活用編、虎の巻編、自律改善編～独立行政法人 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター編 共著

ソフトウェアプロセス改善手法SaPID入門 日科技連出版社

VSE標準 導入の手引き JISA標準化部会VSE 標準普及ワーキンググループ共著



当ワークショップの狙い

2つのレビューアプローチの実践（ワーク）を通じて以下①②③の実現を目指します。

① 効果と効率を両方兼ね備えたレビューのあり方を再確認する、または気づく。

② 対象全体と個別詳細の両面を確認しながら、有効な欠陥を狙うレビュー目的～観点設定の考え方と基礎的な実践方法を把握する。

③ ①②の効果を実感し、実践に移すための手がかりを獲得する。

今回のレビュー対象



版数・注意書き・発行履歴
情報は存在しないこととし、
コスト面とともにレビュー対
象外とします。



組込みシステム教育教材 話題沸騰ポット GOMA-1015型 要求仕様書

http://www.sesame.jp/workinggroup/WorkingGroup2/POT_Specification_v7.PDF

→HBA Quasolでは、組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会 (SESSAME) 様との契約に基づき当要求仕様書を使用しています

＜タイムスケジュール(予定)＞

15:30～	5分間	イントロ
15:35～	15分間	①アドホックレビュー
15:50～	15分間	解説・準備
16:05～	40分間	②目的・観点設定ワーク
16:45～	10分間	休憩
16:55～	15分間	③目的・観点によるレビュー
17:10～	30分間	④結果分析・考察・ふりかえり
17:40～	5分間	結果共有
17:45～	5分間	講評・まとめ

演習1:レビュー実践

- 各自で配付されたレビュー対象をレビューし、結果を「①検出欠陥／問題事項リスト」に記録してください。

【時間:15分間】

もし余力や時間があれば、レビューを行うために必要な(でも不足している)ものや情報等があれば「②整理票:(1)欄」にメモを取ってください。また、更に余力があれば「②整理票:(2)欄」にも記載してみてください。

※整理票の記載は任意対応事項です

①検出欠陥／問題事項リスト

Gr名:

P:

/

No	場所	内容	備考

②レビュー時不足事項整理票(ここへの記録は任意です)

No	(1)レビューを行うために 不足しているもの・情報など	(2)なぜ必要? / 何に使用する?	備考

演習2:レビュー目的・観点分析

- 演習1のレビュー結果を「③レビュー目的・観点分析表」を活用して分析してみましょう。

【時間:25分間】

分析が早く終わった方は、グループ内の方達と分析結果を比較してみてください。

③レビュー目的・観点分析表

(5)件数	(4)観点はどのような目的を達成するためのものですか？	(3)どのような観点でレビューした結果ですか？	(2)どのように調べた結果分かりましたか？	(1)レビュー結果検出した欠陥の内容

レビュー観点分析(例)

(5) 件数	(4)観点はどのような 目的を達成するため のものですか？	(3)どのような観 点でレビューし た結果ですか？	(2)どのように調 べた結果分かり ましたか？	(1)レビュー結果 : 検出した欠陥 の内容
3	システムを一貫した 構造や用語使用で 構築するため →使用性・保守性が 確保されていること を確実にする	ドキュメント内整 合(一貫性・整 合性)	類似画面を洗い 出して目視で比 較確認	P1では「登録」ボ タンなのに、P3 では「書き込み」 ボタンになって いる

(5)

類似欠陥の件数
をカウントして記
入する

(2)～(4)

左に一つずつシフトしながら
回答する

(1)

欄に検出した欠
陥を記入する

演習3:レビュー目的・観点設定

- レビュー目的と観点を設定し、観点毎にレビュー担当を決めてください。

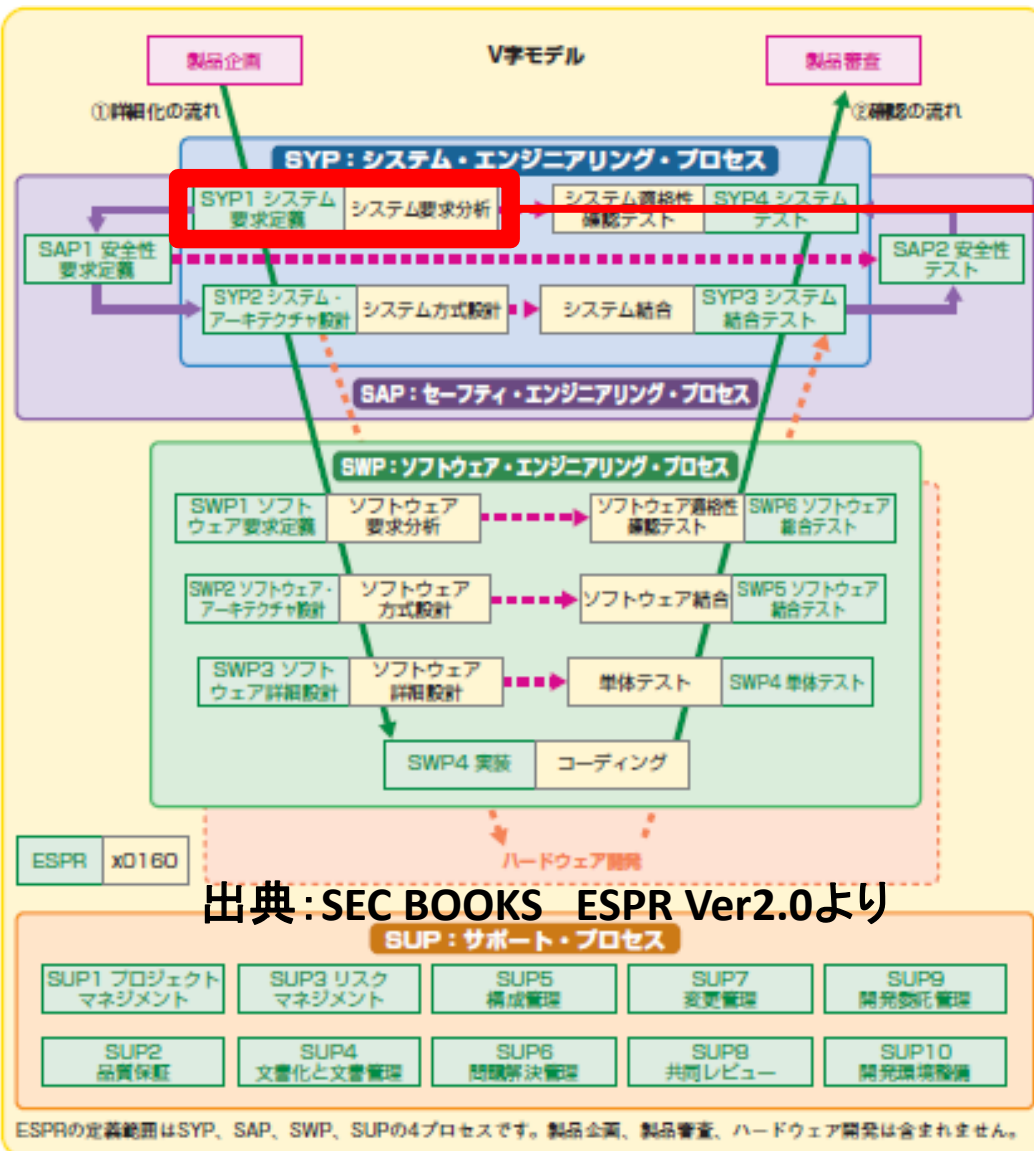
【このレビューの位置づけ】

今回は、当開発プロジェクトとして“はじめて実施する”レビューです

【目指すこと】

今後のプロジェクト運営に対して、できるだけ効果の高い欠陥とリスクを、最小のリソース・時間（今回はメンバー数 × 15分）で検出する！

今回の対象フェーズとタスク



SYP1 システム要求定義

1.1 システム要求仕様書作成

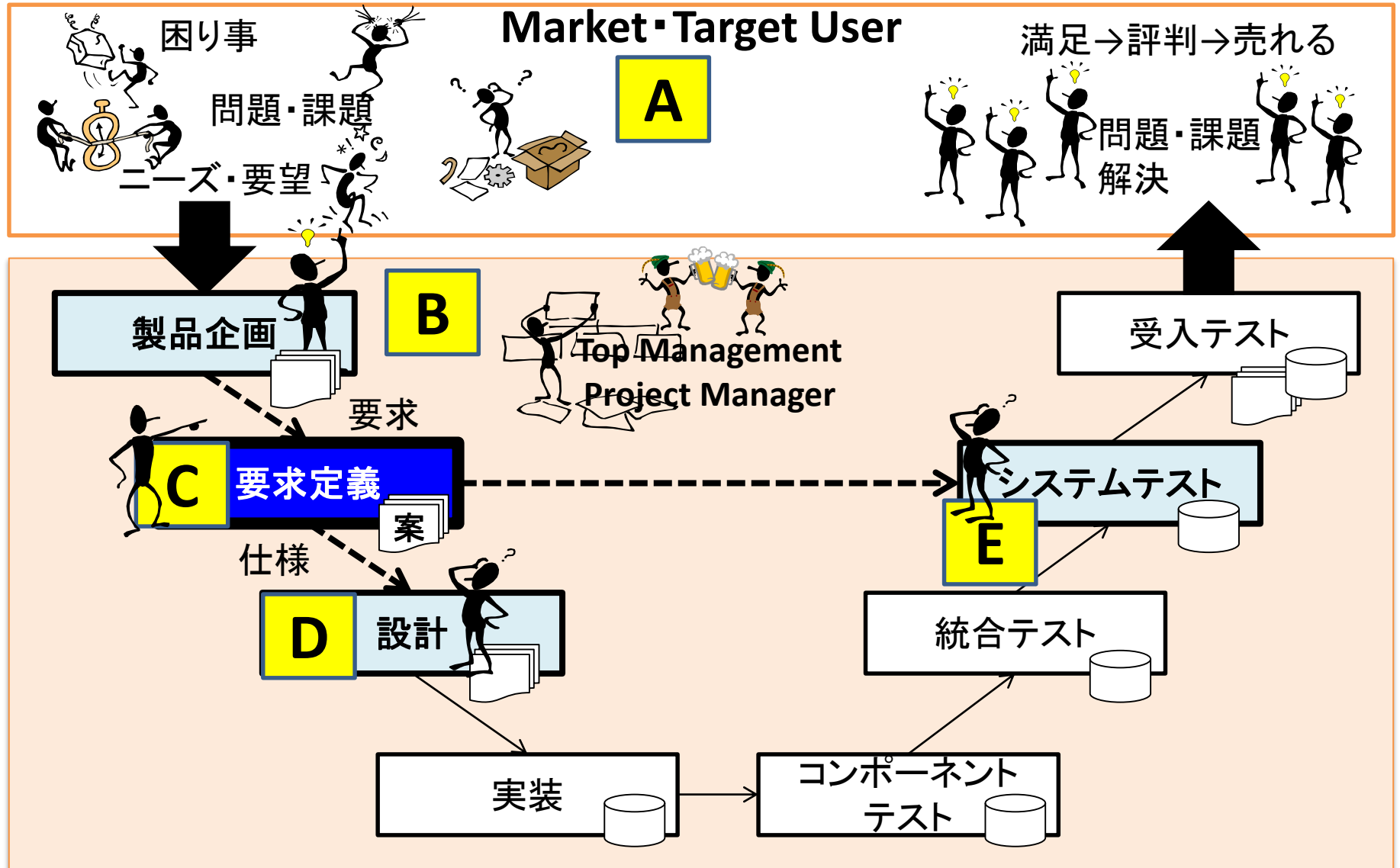
1.2 システム要求仕様の確認

→現在、システム要求仕様書作成が終了し、システム要求仕様の確認を行うところです

「電気ポット」企画書

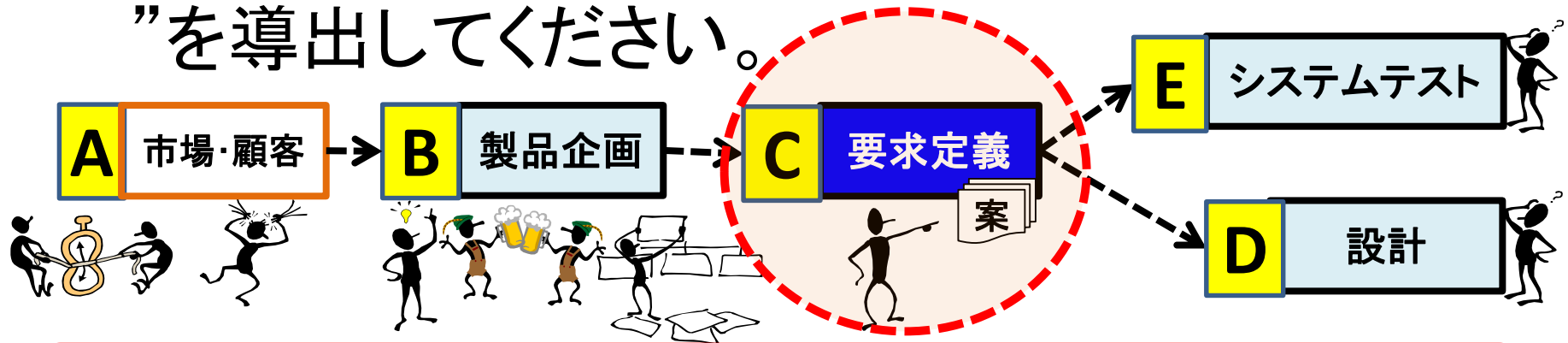
当日のみ公開

現在の立ち位置と関係するタスク・立場



立ち位置からの観点導出

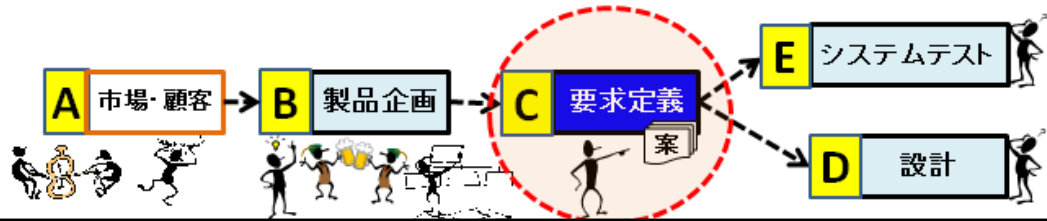
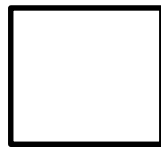
- それぞれの立ち位置(立場)で“レビュー観点”を導出してください。



※ヒント: 立ち位置で、「要求定義・要求仕様書」に実現してほしいコト、
「要求定義・要求仕様書」の内容で確認したいことを考えてみる。

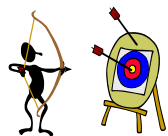
- 導出した観点が複数ある場合は、重要度を1 (最重要) から順に付与してください。

自分の立場

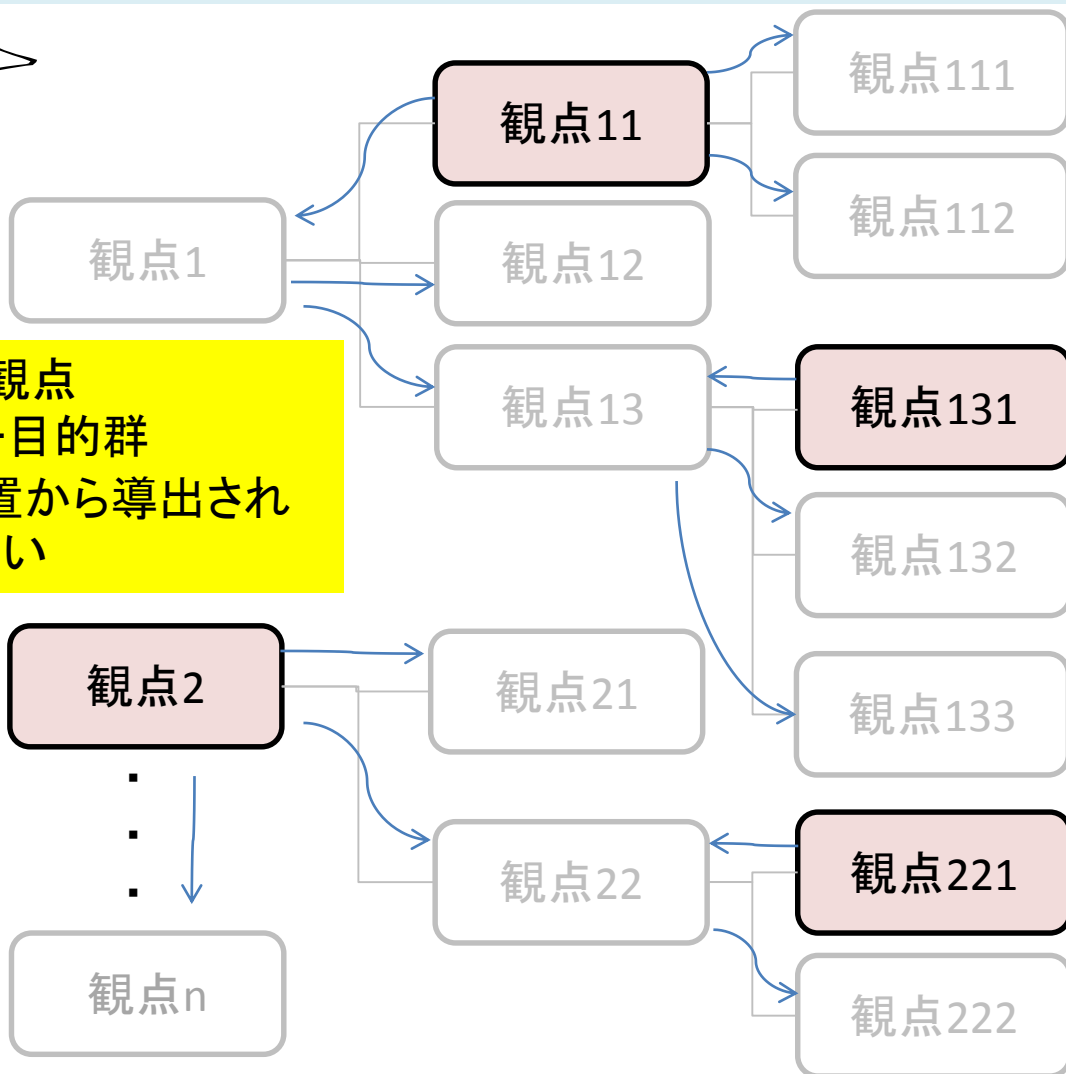
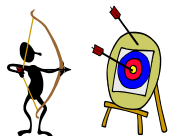
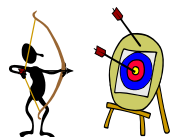


■ 観点(重要度)

観点の体系化→目的の明確化



最上位の観点
＝レビュー目的群
※立ち位置から導出されることが多い



摘要

観点

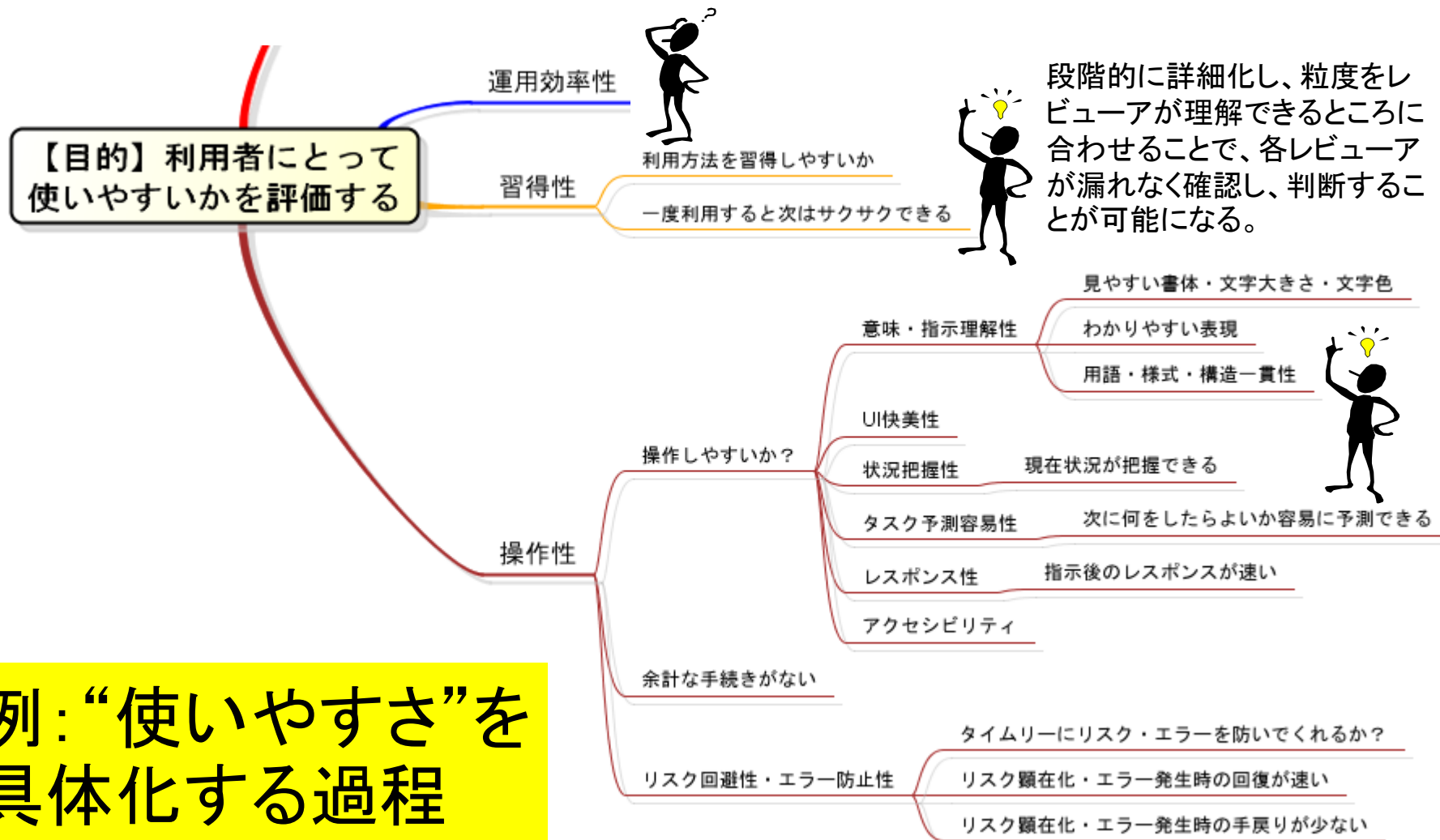
当初自ら導出した観点

観点

自ら導出した観点を頼りに後から導出した観点

観点と粒度

トップダウンとボトムアップを組み合わせ
MECEな階層構造を構築する。
抽象度の高い領域で整理することで仕様変更
への柔軟な対応も可能になる。



例：“使いやすさ”を
具体化する過程

④レビュー計画・観点設定票

レビュー目的:

レビュー観点	確認方法	担当者

事例

④レビュー計画・観点設定票

レビュー目的:

対象ドキュメントを活用して作業する要員が、業務目的と設計の意図・内容を正しく把握して作業を行えることを確認する

レビュー観点	確認方法	担当者
A-1: 意図・目的記述	～のために、～を目的として、など目的・意図を示す表現の存在を確認する	猪股
A-2: 論理性	意図、目的を実現する手段となっているか、より適切な代替手段がないかを確認する	猪股
B-1: 曖昧表現	以下の事項の存在を確認する 同じ意味の用語、多義文がないか、かかり先不明の言い回しand/orの併用	安達
B-2: 記述詳細度	実装担当者の自由裁量となる部分の存在を確認する	安達

演習4:レビュー実践(改善後)

- グループで配付されたレビュー対象をレビューし、結果を「①検出欠陥／問題事項リスト」に記録してください。

【時間:15分間】

効果的な欠陥を見つけるために集中していきましょう！

①検出欠陥／問題事項リスト

Gr名:

P:

/

No	場所	内容	備考

演習5：結果分析・考察

- レビュー結果を分析してみましょう。
- 「⑥レビュー結果分析表」にて、
 - 1)演習1の検出欠陥を分析する(改善前)
 - 2)演習4の検出欠陥を分析する(改善後)
- 以上の結果を比較しながら考察し、「⑦レビュー実践・結果考察表」に記載する。

⑥レビュー結果分析表

△改善前 : Before ↓ ●改善後 : After			発見可能Phase(想定)				計
			設計～UT	IT	ST・OT	C/O後	
			1	3	5	7	
検出効果	効果大 主対象:	5					
	効果中 主対象:	3					
	効果小 主対象:	1					
計							／

⑦レビュー実践・結果考察表

(1)改善前後で変化したこと(運営方法／成果)	(2)変化の要因・言えること(具体的に)
(3)改善前後で変化しなかったこと	(4)変化なしの要因・言えること

その他、気づいたこと／言えること

演習6：改善概要検討

- 「⑧ふりかえり表」を活用して実体験や気づきに基づく改善を検討してください。
 - (1)「今回やったこと」を書いてみましょう。
 - (2)(1)の結果から、わかったこと＝「実践・継続したいこと」「問題・課題事項」を書き出してみましよう。
 - (3)(2)の結果から、実践すると効果が得られる「次にやること」を具体的にしてみましょう。

⑧ふりかえり表

Y:今回やったこと	W:わかったこと	T:次にやること(Try)
	Keep:実践・継続したいこと	
	Problem:問題・課題事項	